

# ふるさと稲作ほっと LINE No.5

令和6年5月1日

## 高温と寒暖の差による苗立枯病・ムレ苗に注意！

今後、高温と低温が繰り返される予報となっており、苗立枯病やムレ苗の発生リスクが高まります。気温に応じた温度管理と水管理に努めましょう。

### 【苗立枯病】

立枯病と呼ばれる病原菌は実は種類が多く今回は特に発生が多い3種類の病原菌を紹介します。

①ピシウム菌・・・立枯症状とムレ苗症状の2種類存在する。

立枯病症状



褐色に変化し、枯死する。

ムレ苗



地際部が萎凋し枯死する

主に上図二種類の病原菌は目に見えるカビが発生しないのが特徴。

ハウスに入ったときにメガネが曇るような過湿環境だと発生ムレ苗の発生を疑いましょう。

### フザリウム菌



出芽までの高温により発生助長

### リゾープス菌



出芽時の高温過湿により発生

対してこちらの2種類は目に見えるカビが発生します。

灌水や換気に気を配り、過湿状態にしないことが重要です。

#### 【発生した場合の対策】

立枯病が発生した場合、対策として下記適用薬剤があります。

薬剤名	ピシウム	フザリウム	リゾープス
ナエファインフロアブル	●	●	●
タチガレン液剤	●	●	
タチガレエース M 液剤	●	●	
ダコニール 1000			●
ダコレート水和剤		●	●

もし立枯病のような症状が見られたらまずは最寄りの営農センターの専任指導へご相談ください。

#### 【もみ枯れ細菌病】

近年、問題になっている細菌病です。感染力が非常に強いため症状が現れたら育苗箱ごとハウス外などに隔離しましょう。



特徴としては、葉身が抜けやすくなり坪場に葉先が枯れていきます。

原因は、浸種時の低温による消毒不足や育苗期間の換気不足が挙げられます。

育苗期間の換気徹底・温度下降管理により発病・感染を抑えられます。

左図の赤丸で囲った部分の葉先が若干枯れてます。これが初期症状です。